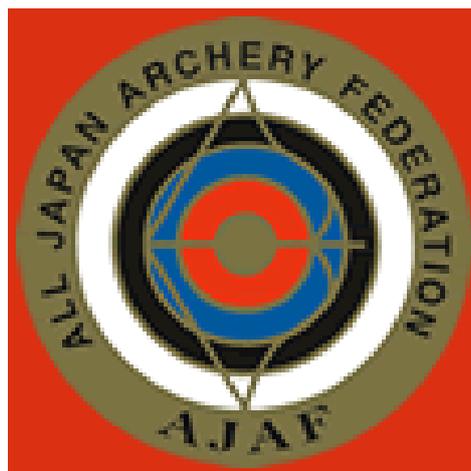


令和7年度
第44回全国高等学校アーチェリー選抜大会

競技上の注意



会 場 つま恋リゾート 彩の郷 第一多目的広場特設会場

日 時 令和8年3月26日(木)～3月28日(土)

主 催 (公社) 全日本アーチェリー連盟

共 催 (公財) 全国高等学校体育連盟

主 管 静岡県アーチェリー協会
(公財) 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
静岡県高等学校体育連盟アーチェリー専門部

< 大会日程 >

日 程	実 施 内 容	時 間	適 要
1 日 目	3月26日(木) 受付 監督会議 女子 練習 用具服装検査 男子 練習 用具服装検査	12:30 ~ 13:30 ~ 14:00 14:45 ~ 15:45 16:00 ~ 17:00	受付(場所 競技会場) 競技補助者役員(東ブロック)打合せ (場所 カンファランスC) 監督会議(場所 カンファランスC) 公式練習(第一多目的広場特設会場) 用具・服装検査(競技本部テント後方)
2 日 目	3月27日(金) <午前> 女子 予選ラウンド 個人戦 <午後> 男子 予選ラウンド 個人戦	8:30 ~ 11:00 11:40 ~ 12:25 13:00 ~ 15:30 16:10 ~ 16:55	女子 予選ラウンド(70m36射×2) 女子 1/24リミネーション 休憩 男子 予選ラウンド(70m36射×2) 男子 1/24リミネーション
3 日 目	3月28日(土) 男女個人戦 決勝ラウンド	8:30 ~ 9:15 9:25 ~ 10:10 10:15 ~ 10:45 10:50 ~ 11:20 11:50 ~ 12:20 12:25 ~ 12:55 13:00 ~ 13:30 13:35 ~ 14:05 15:00 ~ 15:20	男女個人戦 1/16リミネーションラウンド [△] " 1/8リミネーションラウンド [△] " 1/4ファイナル " セミファイナル (射場レイアウト変更:敗退者が対応) 男女個人戦 ブロンズメダルマッチ 女子 " ブロンズメダルマッチ 男子 " ゴールドメダルマッチ 女子 " ゴールドメダルマッチ 男子 " 表彰式・閉会式

※タイムテーブルは予定時間のため、進行状況、天候などにより変更することがあります。

< 競技規則 >

(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則2024～2025年、及び、(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める大会運営規定により実施する。

< 大会運営規定 >

1 用具服装検査について (26日(木) 女子:14:45～15:45 男子:16:00～17:00)

場所: 競技本部テント後方

(1) 検査順 ①北海道・東北 ②関東 ③北信越・東海 ④近畿 ⑤中国・四国 ⑥九州 ⑦再検査

(2) 用具服装検査方法

ア 選手、監督、マネージャーとも検査を受ける。

(監督は顧問証を外部監督は全ア連の会員証をIDケースに入れる)

イ 弓は審判員にフェイス面を向けて持ち上げ、検査を受ける。(右図参照)

ウ 以下の項目について検査を行う。

a 規定に適合したユニフォームとその着用状態(複数ある場合は全て)

b 競技者番号(以下、ゼッケン)の照合と装着位置(常に視認できるか)

(選手はクイバーに結束バンドで装着、マネージャーはユニフォーム背面に安全ピンで装着)

c 防水衣、防寒衣(正式なユニフォームの上に着用しているか)

d 弓、タブ(競技に適した安全なものか)

e 矢(ノック、フェザー、ネーム等が統一されているか)

f ターゲットバッジ

g 予備弓具(弓、予備ストリング、予備タブ等)

h サングラス

i その他 スコープの検査は行わない。

(3) 競技中も、用具および服装は検査継続の対象とする。

(4) 用具の交換や修理に際しては、その都度審判員の検査を受けること。

(5) 再検査 検査不合格の選手は以下の時間で再検査を行う。必ず監督が同伴すること。

① 26日(木) 男女別用具服装検査時間内

(女子:女子選手の検査終了～15:45 男子:男子選手の検査終了～17:00)

② 27日(金) 女子: 8:10～8:20 競技本部テント後方

男子: 12:40～12:50 競技本部テント後方

2 練習について (26日(木) 女子:14:45～15:45 男子:16:00～17:00)

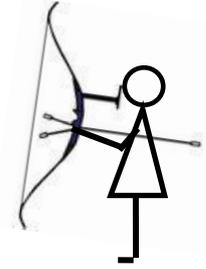
※出場登録された選手のみ

(1) 標的は距離70m、122cm的を使用し、各選手が予選時に使用する標的で行う。

(2) ABC矢取りの1立(3分)で実施する。(矢取りを含め女子15:45 男子17:00を越えないものとする)

(3) 監督・マネージャーはWWLまで立ち入ることができる。

(4) 競技場内では、監督・選手・マネージャーはユニフォームを着用し、支給された予選用ゼッケンを選手はクイバーに結束バンドで装着し、マネージャーは背面に安全ピンで装着すること。



弓はフェイス面を審判に向けて持ち上げる



ゼッケン装着例

3 競技・行射方法について

(1) 標的・ゼッケンについて

ア 予選ラウンドでは、各選手はプログラムに記載された標的を利用する。支給された予選用ゼッケンをクイバーに結束バンドで装着する。(安全ピンの使用は厳禁)

(2) 予選ラウンド(27日(金) 女子8:30~11:00 男子13:00~15:30)

ア 70m72射(36射×2回)で実施する。122cm標的面を使用する。

イ 行射は1標的3名の1立ち(ABC)で行い、3分6射ごとに採点および矢取りを行う。なお、選手の行射については、指定された行射位置とする。

ウ 競技開始前に練習を設ける。

a 3分を2回行う。

b 練習時間内の本数制限は設けないが、時間外発射を行わないこと。

エ 矢取りは当該出場選手が行うものとするが、事情により矢取り代行を配置する場合は監督会議前までに届け出るものとする。

(競技中に発生した不慮の事故による場合は審判員に届け出ること。)

オ 用具破損等で審判へアピールするときは、シューティングライン上で挙手して審判員に知らせ、審判員の判断を仰ぐ。

カ 補充矢の行射は、3分6射2エンドまでとする。

(3) 決勝ラウンド、次ステージへの進出、シュートオフについて

ア 個人戦は予選ラウンド上位56名がイリミネーションラウンドに進出するものとする。

イ イリミネーションラウンドへの進出、イリミネーションラウンド・ファイナルラウンドでの同点は10点数、X数を考慮せず、すべてシュートオフで勝敗を決する。

ウ 個人戦の予選ラウンドの8位・56位で同点が生じた場合、中立の標的を使用し、1競技者1標的で1射(30秒)のシュートオフを行う。

(4) 個人戦の予選ラウンドで得点が同点だった場合は次のように順位を決定する。

ア 10点の数の最も多いもの。

イ X(インナー10)数の最も多いもの。

ウ これがまだ同数の場合、同順位とする。

エ 決勝ラウンドの1回戦における対戦表の位置を決めるとき、上記ア、イによっても順位が決まらない場合は、ディスクトスによって順位を決定する。

オ ディスクトスは、競技本部において競技委員長立会いの下で実施する。

(5) 個人戦決勝ラウンド

ア 距離は70m、122cm標的面を使用して行う。

イ ゼッケンは決勝ラウンド用を装着する。(装着例参照)

ウ 1/24・1/16イリミネーション競技開始前に練習を設ける。

a 27日 1/24イリミネーション競技開始前(1分30秒を2回行う)

28日 1/16イリミネーション競技開始前(1分30秒を2回行う)

b 練習時間内の本数制限は設けないが、時間外発射を行わないこと。

- エ 対戦がない (b y e) 選手は、1/24イリミネーション の競技中、指定された標的 (トーナメント表参照) で練習することができる。(対戦相手が棄権した場合を含む。)
- 練習は第3セットまでとする。
 - 1セット内の行射は3本までとする。4本以上行射した選手は、その後の練習を行うことはできないが、次のマッチの制裁の対象とはならない。
- オ 対戦する2名は、1/16イリミネーションまで同じ標的を使用し、1/8イリミネーションからは1標的1名で行う。
- カ 各対戦の立ち位置はトーナメント表どおりとする。(巻末トーナメント表参照)
- キ 対戦はセットシステム(1セット: 1分30秒 3射×5 セットマッチ)で実施し、各セットの勝者は2ポイント、同点の場合は両選手に1ポイント、シュートオフの勝者は1ポイントを獲得する。各対戦で6ポイント以上に達した選手は勝者となり次のラウンドに進む。
- ク セミファイナルまでの行射について
- 2名同時行射とし、採点、得点記録、ポイント表示は当該選手が行う。
 - ブザー2声でS Lに入り、ブザー1声で行射を開始する。
 - 勝敗が決したら、選手サイン後に後方の審判員から確認を受け、3mライン付近で勝者コールを受ける。
- ※審判員確認時点で計算ミス等が発覚し、勝敗が違っていても、選手サインが終わっていた場合はスコアカードの記載内容が優先される。
- 5セット終了時で同点の場合は、両者同時行射で1射(制限時間30秒)のシュートオフにより勝敗を決定する。
- ケ ブロンズメダルマッチ・ゴールドメダルマッチの行射について
- 交互行射とし、1射(20秒)ごとに行射を交代する。
 - 行射の順番は、予選ラウンドの上位者が選択する。
 - 先攻の選手は、行射開始の合図(ブザー)で行射を開始する。
 - 第2セット以降は、合計ポイントの低い選手が先攻となる。
 - 各セット終了時に両者のポイントが同点の場合、第1セット先攻の選手が先に行射する。
 - 後攻の選手は先攻の選手が射ち終え、自分の時計の減算が始まったら行射を開始する。
 - 両者がそれぞれ3射を射ち終えるか、制限時間が終了した時点でブザーが3声鳴り、採点、矢取りを行う。
 - 第5セット終了時で同点の場合は、交互射ち各1射(20秒)のシュートオフにより勝敗を決定する。第1セット先攻の選手が先に行射する。
- コ 用具破損等によるロスタイムは認めない。
- サ 決勝ラウンドの敗者の順位決定方法は以下のとおりとする。
- 1/24イリミネーションラウンドの敗者は33位
 - 1/16イリミネーションラウンドの敗者は17位
 - 1/8イリミネーションラウンドの敗者は9位
 - 1/4ファイナルラウンドの敗者は、その対戦で獲得したポイント数で、ポイント数が同数の場合、その対戦の合計得点で最終順位を決定する。

4 得点記録について

(1) 得点記録は別紙のスコアカード(予選用・決勝用)を使用し、同一標的を使用する全選手で得点記録の業務分担を行う。また、予選の得点は携帯端末を使用し記録の入力・送信をする。

※集計システムには、Ianse /Ianse ScorekeeperNG を使用し行います。

(2) 予選ラウンドの得点記録は、次の通り各々が分担して行う。

ア 矢を所有する選手の指差し呼称にしたがい、スコアラーは高い得点順にスコアカードに記入する。その標的の他の選手は、呼称確認・端末入力を行う。

(インナー10はアルファベットの「X」を、0点はアルファベットの「M」を記入・入力する。)

イ 矢の所有者および同一標的を使用する他の選手が、それぞれを分担して得点確認を行い、確実に実施するものとする。

ウ 各選手はスコアカードと携帯端末の得点が合っていることを確認後、携帯端末から送信する。

エ 選手自身が関与する得点記録業務の内容は、他の選手の得点記録や順位に関する権利にも影響を及ぼす。それぞれが下記の順序のとおり分担業務を確実に行うこと。

役割等を拒んだ場合は競技会への参加権利を失うものとする。虚偽が発生した場合は、当該選手または同一標的選手全員を失格とすることもある。

オ 欠場等により1標的1名で行射しなければならない状況が生じた場合は、2名で得点記録作業が行われるよう補助員を補填する。

< 1 的 3 人 >

順序	得点記録の順序/業務分担	選手A	選手B	選手C
1	Aの得点記録	得点呼称 記入・入力確認	復唱 スコアラー	的中確認 端末入力
2	Bの得点記録	的中確認 端末入力	得点呼称 記入・入力確認	復唱 スコアラー
3	Cの得点記録	復唱 スコアラー	的中確認 端末入力	得点呼称 記入・入力確認
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・誤記の無いよう確認をしっかりと行うこと。 ・スコアカードの間違いを防ぐため、記録する選手の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は、得点を「復唱」する。 ・標的面の的中孔の全てに、L字でチェックする。 ・矢取りに関しては、矢の管理の観点から、自分の矢は自分で抜くことを基本とする。 			

< 1 的 2 人の場合 >

順序	得点記録の順序／業務分担	選手A	選手B
1	Aの得点記録	得点呼称 端末入力	復唱 スコアラー
2	Bの得点記録	復唱 スコアラー	得点呼称 端末入力
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・誤記の無いよう確認をしっかりと行うこと。 ・スコアカードの間違いを防ぐため、記録する選手の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は、得点を「復唱」する。 ・標的面的的中孔の全てに、<u>L</u>字でチェックする。 ・矢取りに関しては、矢の管理の観点から、<u>自分の矢は自分で抜くことを基本とする。</u> 		

< 個人決勝ラウンド >

順序	得点記録の順序／業務分担	(左立ち)	(右立ち)
1	(左立ち) の得点記録	得点呼称 端末入力	復唱 スコアラー
2	(右立ち) の得点記録	復唱 スコアラー	得点呼称 端末入力
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・誤記の無いよう確認をしっかりと行うこと。 ・スコアカードの間違いを防ぐため、記録する選手の名前を呼んでから記録する。 ・得点呼称された得点を記入・入力する際は、得点を「復唱」する。 ・標的面的的中孔の全てに、<u>L</u>字でチェックする。 ・矢取りに関しては、矢の管理の観点から、<u>自分の矢は自分で抜くことを基本とする。</u> <p>※個人決勝立ち位置は、P10・P11女子・男子個人決勝トーナメント参照</p>		

- (3) 得点記録(的中点数の判読・記載得点の復唱・誤記入等)に関し、異議があれば直ちに審判員の判定、訂正確認を求めることができる。
- (4) 的中点数の判定について、選手は次のとおり疑義を申し立てる権利がある。
- ア 得点の判読に対する自己確認または同一標的を使用する選手それぞれの立場で疑義が生じた場合、いずれからも審判員の判定を求めることができる。
- イ 審判員により得点の判読が行われ、これが最終判定となる。
- (5) 選手は競技終了後、サイン(競技者、記録者)、合計点、10点数、X数を全て記入したスコアカードを提出しなければならない。主催者が間違いを発見した場合、その間違いは訂正され、その結果は有効とする。※スコアカードの未記入については、無いものと判断され「0」と取り扱う場合がある。また、サインの無いスコアカードについては、失格となる場合がある。
- (6) 個人戦決勝ラウンドの全ての対戦のスコアカードへの記入及びスコアボードへのポイント表示は選手が行う。メダルマッチでは得点の判読を審判員が行い、この判読が最終判定である。

- (7) 同一標的選手全員の得点記録業務が完了し、得点記入が終わったことを選手全員が確認するまで、矢・標的面・標的支柱等に一切触れてはならない。
- (8) スコアカードに記載された得点の訂正は、2本線で該当矢のみの訂正を行い、その他の選手全員がサインする。同じエンドで2回以上の訂正をする場合は審判員に訂正してもらう。
- (9) 得点記録業務に必要な絶対条件を、各自が完全に履行すること。不注意による不履行も「合意の違反行為」とみなされる。
- ア スコアカードに記載される各エンドのスコアが正確であることについて、各選手は競技者としての責任を負わなければならない。
- イ 各々の分担業務遂行のため、選手名を聞き漏らさないこと。
- ウ 誤りを防ぐために、用紙・選手名・記入上の確認を行うこと。
- エ 得点記入したスコアラが復唱しない場合は、復唱を必ず要求すること。
- オ 声量不足で聞き取れない場合は、再度の復唱と声量の要求をすること。
- カ 得点呼称時に、必ず「自分のスコアカードの記入欄」であることを確認すること。
- キ 矢を抜き取る前には、標的面的の中孔にL字でチェックをしておくこと。
- ク 選手は、競技終了時にスコアカードに確認のサインをする。サイン不履行の場合、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。
- ケ 得点呼称は他の競技者にも分かりやすいよう指を差しながら行う。（その際は矢には触れないよう注意すること）
- コ 上記ア～ケの行為は、すべてそれぞれの選手の責任として行うこと。
- (10) 得点記録業務において、次の場合には当該選手並びに同一標的を使用する選手全員の失格を宣言することがある。
- ア 自身の虚偽や不正申告の場合
- イ 上記行為の合意・容認の場合
- ウ 各厳守事項に対する不全・不履行の場合
- (11) 選手自身が標的に行けない場合、所定の手続きをとり、審判員の許可を得てチームの監督、同じ標的の他の選手、またはその選手の代行者に得点記録と矢の回収の権利を委託することができる。
- (12) メダルマッチについてはランナー(矢の回収員)、エージェント(採点確認代理人)を採用する。

5 スコアカード

(1) 予選ラウンド用スコアカード

- ア スコアカードは予選ラウンド練習前に配布されるので、選手は内容が正しい事を確認すること。
- イ 得点記入は上の欄から記入する。
- ウ 36射終了時に、必要事項（サイン（競技者、記録者）、合計点、10点数、X数）の記入を忘れないこと。
- エ スコアカードの提出は、前半（36射）後半（36射）終了時に記録席付近の専用回収ボックスに提出すること。

令和0年度 第00回全国高等学校アーチェリー選抜大会
静岡県掛川市
つま恋リゾート彩の郷第一多目的広場特設会場

選手名: 氏名 フリガナ セクシ
所属先: 略称 正式名称 R 70

70m-1	セッション: 1			小計	累計	10+X	X
	1	2	3				
1	X	X	8	28			2
	8	8	7	23	51	51	
2	X	10	9 30 ³⁰ [Ⓐ] [Ⓑ]	25 ³⁰	55 ¹⁰⁵		2
	9	8	8	25	55	105	
3	9	8	8	25			
	7	7	7	21	46	151	
4	10	8	7	25			1
	6	5	3	14 ¹⁴	39	190	
5	9	8	8	25			
	8	7	6	21	46	236	
6	10	10	9	29	29 [Ⓐ] [Ⓑ]		2
	8	8	5 ⁵	20	49	285	
				総計	285	7	3

予選用スコアカード記入例

(2) 個人戦決勝ラウンド用スコアカード

- ア スコアカードは各対戦前に配布されるので、記載事項を確認し開始時に担当審判に提出する。
- イ スコアカードは各対戦につき1枚を使用する。
※対戦終了後、選手はスコアカードを記録席付近の専用回収ボックスに提出すること。
- ウ 対戦終了後に必要事項の記入を忘れないこと。

令和0年度 第00回全国高等学校アーチェリー選抜大会
静岡県掛川市
つま恋リゾート彩の郷第一多目的広場特設会場

選手名: 氏名 フリガナ 手選順位
所属先: 略称 正式名称
部門別対戦: リカブ男子/女子 的番号 No.

勝者 (レ付ける)

	1	2	3	対小計	対ポイント	対ポイント外累計
1	9	9	7	25	21	0
2	10	8	8	26	2	1
3	10	10	9	29	2	0
4	9	9	8	26	2	1
5	10	9	8	27	2	0
				総計	5	

選手サイン: 見込席は射台中心に直ぐ左に付

選手名: 氏名 フリガナ 手選順位
所属先: 略称 正式名称
部門別対戦: リカブ男子/女子 的番号 No.

勝者 (レ付ける)

	1	2	3	対小計	対ポイント	対ポイント外累計
1	10	10	10	30	2	1
2	9	9	8	26	2	0
3	10	10	9	29	2	0
4	9	7	7	23	2	1
5	9	9	9	27	2	0
				総計	6	

選手サイン: 見込席は射台中心に直ぐ左に付

選手サイン: ○ ○ ○ ○ △ △ × ×

審判印

決勝用スコアカード記入例

6 服装規定について

(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める服装規定に準じて実施する。

7 競技者の失格について

(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則第14章第209条、210条に準じて競技者を失格にする場合がある。

※大会の秩序を著しく失墜・混乱させる行為、スポーツマンシップに反する行為等については、1回目での失格もあり得る。(※監督・マネージャーの違反行為等についても同様の対処とする。)

8 その他の事項について

(1) 的紙の交換は、必要と認めた場合に行うものとする。

(2) 公式練習、予選ラウンド、個人戦決勝ラウンドの競技中、監督・マネージャーはWWLまで立ち入ることができる。

(3) 各対戦で敗退した選手、監督、マネージャーは、速やかに指定エリアから退出すること。

(4) 予選ラウンドで使用する弓具はWL後方に整頓して置くものとする。

(5) 競技会場で行射により矢を紛失した場合は、審判員に必ず報告すること。

(6) 記録の掲示については次のとおりとする。

ア 記録の貼り出しは行わず、得点集計システムを用いた電子配信のみとする。

イ 予選ラウンド終了後に行う記録の確認は、電子配信された確認記録一覧表による。

※確認記録に対する異議申し立ては、確認記録配信後10分間とする。

ウ 決勝ラウンドでは、各対戦の結果を表示する。

エ 個人決勝ラウンドの確定記録は本専門部HP上による電子配信とし、競技終了後、競技会場での配布は行わない。

(7) 得点記録以外の異議申し立てについては、いかなる場合も監督を通じて競技本部へ申し出、競技委員長、又は審判長の裁定をもって最終決定とする。その裁定を不服とする上訴委員会への提訴については、(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則に準じた手続きを取らなければならない。

(8) 記録確認等で使用するスマートフォン等の使用はWWL後方とする。着信音を鳴らすことを厳禁とする。

(9) 表彰式・閉会式については以下のとおりとする。

ア 決勝ラウンドベスト8に残った選手は表彰式に参加すること。

イ 閉会式は参加者が整列しての式典は行わず、控えテント内で行う。

女子個人戦決勝トーナメント表

- ① 1/24 ~ 1/16 は1標的2名の行射とする。
- ② 立ち位置は、トーナメント表左側は、上段が左立ち、下段が右立ち。
トーナメント表右側は、上段が右立ち、下段が左立ちとなる。

女子個人決勝トーナメント



男子個人戦決勝トーナメント表

- ① 1/24 ~ 1/16 は1標的2名の行射とする。
- ② 立ち位置は、トーナメント表左側は、上段が左立ち、下段が右立ち。
トーナメント表右側は、上段が右立ち、下段が左立ちとなる。

男子個人決勝トーナメント



